



しろしたこうさく 城下広作県政報告誌

県民の身近な代弁者

2013年 8月発行

県民の身近な代弁者
熊本県会議員
D 熊本市北区選出
■熊本県庁
〒862-8570
熊本市水前寺6-18-1
Tel.096-333-2645
Fax.096-385-9767

第 57 号



昨年7月2日の熊本広域大水害から約1年。復旧に向けた取り組みは、着実に前進していますが、被害を受けられた方々の中には、現在も仮設住宅暮らしあり、農業被災で作付できない方もいらっしゃいます。一日も早い全面復旧を私も訴え続けて参ります。

平成25年8月吉日

県議会議員(公明党) 城下 広作

7月7日、太田国土交通大臣と阿蘇被災地域を視察!!



▲坂梨地区

阿蘇地区の土砂災害で人的被害が一番多かつた坂梨地区を視察。地元住民や市議会の皆様と今後の復旧計画の説明を受けた。



▲仮設住宅

一宮町宮地にある高田住宅(四季彩いちらみや)横の仮設住宅を視察。住民の代表と意見交換し仮設住宅の利用期間の延長希望の要望を受けた。



被災地の本格復旧へ

九州北部豪雨1年 太田国交相が現場視察

熊本・阿蘇市

滝室坂の復旧状況を視察する太田国交相(手前右から3人目)=7日 熊本・阿蘇市

太田昭宏国土交通相(公明党)は7日、発生から間もなく1年を迎える九州北部豪雨で、甚大な被害を受けた熊本県阿蘇市を訪ね、被災地の復旧状況などを視察した。これには公明党の氷室雄一郎、城下広作、前田憲秀の各議員と、森元秀一阿蘇市議も同行した。はじめに太田国交相は、同市と大分県を結ぶ国道57号の滝室坂を視察。豪雨による、の

り面の崩落で通行止めとなり仮橋が設置されている現場で、斜面の復旧作業やトンネル工事の計画について、蒲島郁夫知事や佐藤義興阿蘇市長らと意見を交換した。その後、太田国交相は、被害が大きかった同市一の宮町坂梨で、砂防ダムの建設などについて話を聞くとともに、今も被災者が生活を続ける仮設住宅を訪問した。そこで、被災者が生き残るために、「崩落に対する万全の備えをしなければならない」との考え方を示した。

災害時の迂回路としても重要な意味を持つ九州横断道路の早期実現を!



7月24日、国民宿舎久住高原荘(大分県竹田市久住町)で、中九州横断道路の早期完成を目指す平成25年度の総会があり、県議団3名で参加して参りました。昨年7月12日の災害で、滝室坂が崩壊し、両県を結ぶ「命の道」の確保が切実となりました。早期完成に向け頑張ります。



「第二天草瀬戸大橋」完成に向け前進!!



天草地域の活性化を図る「90分構想」。そのカギを握るのが「熊本天草幹線道路」の完成です。現在、一本の国道が基幹道路で慢性的な渋滞に悩まされ、防災の観点からも問題の多い道路事情です。「第二天草瀬戸大橋」の着工は大きな一步となります。

熊本・鹿児島・宮崎の観光連携を推進!!



8月1日、鹿児島市内にて、県議会内で作る南九州観光議員連盟の役員として参加しました。各県代表と南九州の観光推進について活発な議論を交わしました。

平和の尊さと不戦の誓いを訴えました!



8月15日、終戦記念日に合わせて、毎年恒例の熊本市の辛島公園にて、国会、県会、市会議員と合同で、街頭演説を行い、「平和が一番」と伝わるように訴えました。

九州中央自動車道の早期完成を目指す!



8月23日、宮崎県延岡市北方で、九州中央自動車道建設促進北方大会があり参加しました。宮崎と本県を結ぶ重要な道路で、建設推進に向け頑張って参ります。

●★裏面もご覧ください!!

6月19日、熊本県議会一般質問の要約されたものです。尚、県議会ホームページでは、動画による映像配信サービスも御覧頂けます。これを機会に是非ご視聴をお願いいたします。

●ホットライン《お気軽にご相談ください。》

県議会/096(333)2645・FAX096(385)9767・携帯電話/090-8661-7722

●ホームページ <http://kumamoto-komei.net/shiroshita/>

●メール shiroshita@kumamoto-komei.net

天草上島と下島をつなぐ「第二天草瀬戸大橋」(仮称)の事業着手記念式典が23日、天草市港町の本渡南地区コミュニティセンターで開かれた。県は本年度、調査・測量を進め、10年後の完成を目指す。沿線首長でつくる熊本天草間幹線道路整備促進期成会と県の主催。【15面に連載】

天草つなぐ新ルートに

第二天草瀬戸大橋は上島側の同市志柿町と下島側の同市港町をつなぐ1・3キロ。市役所 本渡港 天草漁協 本渡温泉センター 第二天草瀬戸大橋 調査・測量区間

地域高規格道路「熊本天草幹線道路」約70キロのうち、県が整備する4キロ。式典には約200人が出席。蒲島郁夫知事が「天草つないだ」と作文を披露されました。その後、出席者は近づてもらえる橋になつてほしい」と作文を披露しました。そこで、出席者は近づく本渡港護岸に移動。蒲島郁夫知事が杭やびょうを埋め込みました。

間の「本渡道路」に含まれている。総事業費は123億円。これまで最大限の力をもつて完成に導きました。現在、両島を結ぶ車道はループ橋の天草瀬戸大橋1本しかなく、朝夕の渋滞や災害時の対策が長年の課題となっていました。(橋野貴寛)

れています。総事業費は13年江崎ごろさんが「天草つないだ」と思つてもらえる橋になつてほしい」と作文を披露されました。その後、出席者は近づく本渡港護岸に移動。蒲島郁夫知事が杭やびょうを埋め込みました。

間の「本渡道路」に含まれています。総事業費は13年江崎ごろさんが「天草つないだ」と思つてもらえる橋になつてほしい」と作文を披露されました。その後、出席者は近づく本渡港護岸に移動。蒲島郁夫知事が杭やびょうを埋め込みました。

(一般質問) 平成25年6月19日

公明党 城下広作

1 7・12熊本広域大水害の復旧状況と今後の防災・減災対策

- (1) 県下の復旧状況と復旧に当たっての問題
- (2) 避難指示の明確な伝達方法と避難のあり方
- (3) 本県における今後の防災・減災対策

質問 ①熊本広域大水害では、河川や道路等、国の災害復旧にかかる業務に相当な被害が出ており、被害者からは、一日も早い復旧を望む声が多いが、その復旧状況及び復旧に当たっての問題点について。
②今回の災害では、住民避難のタイミングが難しく、住民には明確な伝達方法が不可欠である。雷雨で呼びかけが困難な状況など悪条件が重なることも想定した上で明確な伝達方法と避難のあり方について、今後どう対処していくのか、以上を知事公室長に尋ねる。③知事は、熊本広域大水害については、創造的復興に努めると述べられた。復旧、復興の道は着実に開かれているが、災害は、いつ、どこで起こるかわからない。今後の防災・減災対策について、知事の所見を伺う。

答弁(知事公室長) ①公共土木施設は、被災件数の8割の復旧工事に着手、阿蘇谷の農地は、土砂撤去が完了予定で、林地崩壊等も約9割の工事に着手した。現段階では、用地取得や河川掘削後の土砂搬出先確保の課題がある。②市町村との検証結果、避難発令時の情報収集体制などの問題があつたため、監視カメラの白川流域への追加設置、予防的避難の実施などに取り組むとともに、市町村の自主防災組織設立の取組みを支援していく。

答弁(知事) 防災・減災対策については、自助、共助、公助の観点から、地域防災力の強化、防災意識の醸成、広域防災活動拠点の機能強化の取組みを進めていく。阿蘇くまもと空港の駐機場を整備し、災害時の受援、支援の対応能力の強化を図り、広域的防災拠点としてのポテンシャルを高め、大規模規模災害に負けない熊本づくりを目指す。

2 TPP問題と県下の今後の農業のあり方

- (1) フードバレー構想における販路拡大戦略
- (2) 就農対策
- (3) 農地集積

質問 ①TPP参加となった場合、県南地域は、守られる農産物がなく、他の参加国農

産物が入り込み、影響を受けると考えられる。フードバレー構想では、売り込み先を、アジアとの貿易拡大や首都圏等への販路拡大としているが、輸出は不透明、外国との競争が激化する可能性もある。この状況下、想定される影響について、また、具体的な販路拡大の戦略について、小野副知事に尋ねる。②TPPに参加しても、参加猶予が10年間あるので、先に農業の後継者問題が起り、農業に壊滅的被害を受ける可能性がある。本県は農業県で高齢化率が高いため、企業の農業参入や新規就農者の受け入れ施策を進めているが、実効性のある就農対策は打ち出されるのか。③農地集積の効果を享受できるのは、平たんな優良農地が集積する場所に限定され、中山間地の農家が切り捨てられるとの声も聞いている。農地集積の県独自の取組み状況はいかがか。国は都道府県に農地中間管理機構を設置するが、どのような形態が効果を發揮すると思うか。②、③を、農林水産部長に尋ねる。

答弁(小野副知事) TPPは不透明な部分も多く、本県農業の影響についての見通しは難しい。今後、情報の収集に努め、その影響を見きわめいく。販路拡大戦略について、全国的に産地ブランドが確立しているものは、競争力を高め、積極的に展開する。流通に乗っていない小ロットの産物は、流通コストの低減やブランド力の向上を進める。輸出は、アジア事務所を活用しアジア・ASEANの発展を取り込む販路開拓に取り組んでいく。

答弁(農林水産部長) ②本県農業の担い手は、農業形態で経営規模などが異なるので、就農相談から定着までの各段階に応じた総合的なサポート対策を講じていく。③平成32年までに、県内全農地の約8割を認定農業者や地域営農組織に集約する目標を掲げ取り組んでいく。国の構想は、本県への追い風と期待しており、県は県農業公社を中間管理機構として、その機能強化を一段と図っていく。

3 県立農業高校・県立農業大学校の進路状況

- (1) 県立農業高校の就農者育成と使命
- (2) 県立農業大学校のあり方

質問 県立農業高校と県立農業大学校の進路状況を見ると、県立農業高校では、就農者が1.8%だが、一般企業への就職が37.2%と一番多い。県立農業大学校では、就

農者と農業関係の就職者の割合が76%で、23%は農業関係外に就職している。この状況が続けば、県立農業高校から農業後継者が育たず、その使命や設立の意義まで問われかねない。約4割の県立農業高校生が農業と無関係の分野に就職する現状をどう捉えているか。また、今後の県立農業高校の就農者の育成と使命について、教育長に尋ねる。また、県立農業大学校においても、進路状況の分析を行い、今後の農業大学校の使命についても検証する必要があると思う。農業大学校のあり方について、農林水産部長に尋ねる。

答弁(教育長) 県立農業高校では学科の特色に応じたスペシャリストの育成、人間性豊かな職業人の育成を目指し、今後は農業に関連の深い企業の求人開拓にも努める。県立農業高校は地域農業を担う人材の育成と確保が使命の一つであるので、地域連携を強化し、新規就農者の育成を図っていく。

答弁(農林水産部長) 農業大学校の今後のあり方としては、学生一人一人にきめ細かに対応し、将来の農業の担い手に導く必要があるので、情報発信により、強い意志で農業を目指す学生の確保に努め、希望を持って就農できるように導いていく。

4 阿蘇中岳火口見物の推進

- (1) 阿蘇観光のPRと火口見物への誘客
- (2) 火口ガス規制

質問 阿蘇中岳火口の東登山道は、中岳、高岳への主要な登山道で、3年ぶりの規制解除により、阿蘇の魅力がさらに拡大することを期待する。阿蘇の観光といえば中岳火口見物だが、火口を訪れる観光客は右肩下がりで、30~40年前と比べると激減状態であり、また、意外にも阿蘇観光のツアーリングに必ずしも入っていない。これはガス規制がその理由だが、この6年間の火口見物の実績は、3人に1人がガス規制等で火口見物ができない状況である。
①この状況下、県はどのようなイメージで阿蘇観光をPRしているか、火口見物への誘客に対する思いを含め、知事に尋ねる。
②ガス規制は、ぜんそく等の方を対象として厳しく設けられており、持病の有無により対応を区別する規制の検討についての意見もあるが、知事の考えを尋ねる。

答弁(知事) ①阿蘇は、世界に誇るべき日本の宝で、中岳火口は、地球誕生の息吹を実感できる、世界的にも貴重な資源である

というイメージで、世界にPRしてきた。九州に来る観光客には、ぜひ中岳火口に立ち寄っていただきたい。②持病の有無による規制区別の方法は、課題も多く、実施困難と考える。継続的な火口見物のためには、安全は大きな要素であり、現在のガス規制はやむを得ない。今後も火口のガス規制を適切に運用し、安全な火口見物ができる阿蘇をPRしていく。

5 油水分離槽における廃油の処理と下水道管の長寿命化の取組み

- (1) 廃油の一時保管の取扱いと浄化槽の維持管理
- (2) 下水道管の管理と維持修繕

質問 ①収集運搬業者は、飲食店等から排出された廃油を、産業廃棄物として処理施設に運搬しなければならないが、少量の排出量では運搬・処理費用が高額になるため、業者は自社努力で回収の効率化に努めている。改善策として、収集運搬業者が廃油を一時保管し、まとまった量を産業廃棄物処理場に運搬すれば利用しやすい料金になるため、業者は一時保管を申請してきたが、県は排出事業者の処理責任の不明確さなどを理由に認めなかった。そもそも廃油の一時保管は可能なのか、可能であれば、どの様な基準をクリアすればよいのか。また、油水分離槽の設置、廃油の適正な処理及び浄化槽の法定検査は実施されているのか。②廃油が適正に処理されないと、下水道管の老朽化の原因となる可能性があるが、その点検状況は。また、下水管の長寿命化計画について、県下の実施状況はいかがか。以上、廃油の一時保管の取扱いを環境生活部長に、油水分離槽の設置と浄化槽及び下水道管の維持管理を土木部長に尋ねる。

答弁(環境生活部長) 産業廃棄物の積みかえ保管を行わざるを得ない場合は、施設の構造等の基準により許可できる。県は事業者には極力行わないよう協力を求めてきたが、許可基準等の周知不足で誤解を与えた。今後は事業者等へ周知していく。

答弁(土木部長) 油水分離槽は、浄化槽の機能維持のために必要な施設であり、浄化槽取扱要項等において設置を規定し普及に努めている。下水道の長寿命化計画については、5市町で策定済みで、他の市町村においても順次調査に着手している。

※全文は城下広作ホームページをご参照ください!